



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

No. 159 1989年12月22日

クラブ協議会特集号を読んで



国際ロータリー会長 ヒュー・M・アーチャー

1989-90年度国際ロータリーのテーマ

ENJOY ROTARY!

**ロータリーを
楽しもう!**

会長 佐藤 定宏

11月24日付のクラブ週報特集で熱心な会員からの積極的な御意見に接し大変感激したと同時に、どの御意見を見ても実にもっともで、実は私自身の考えも欺くものかと思えるものばかりです。

クラブ財政の健全化は、ロータリークラブの基本的在り方を全うした上で、然も財政面で健全でなければならぬ、という命題を負っているわけですから、この面からいうと、原則論から律するのみでは行かない悩みがあると言えましょう。

都心クラブとしての例会の品位はどうしても或るレベルを保持しなくてはなりません。

これを保持する為には、現在の人数では、会費の値上げしか道は無いことになり、然もその会費は都内各クラブの年会費と比べても最高ランクとしなければならぬという事態となり、これは一面非常に不名誉なこととなります。従ってこの事態を避ける為には、新会員を積極的に捜し出す努力をして、会費を上げるにしてもその巾を幾らかでも減らすことの出来る形にしなければならないこととなります。

各会員が責任を持って、一人の新人を捜し出して来る。このうち仮りに半数の方の入会が可能ということになれば問題の大半は解消することになります。

今年度後半は是非この「一人一人」運動を展開して、これを成功せしめ、会費値上げを協議しなければならない役目を負っている方々の心理負担を、幾らかでも軽減して差し上げたいものです。

親睦活動委員長 吉田 用親

本年10月20日のクラブ協議会「財政と増強」及び、これを受けての11月24日のクラブ週報特集号は、当クラブが直面する過大な課題について、多数の会員の貴重な意見が発表され非常に有意義であり、タイムリーであったと思います。この二つの企画により我がクラブの会員全員が、クラブ財政が危機的状況を迎えており、財政再建計画の立案と実行が必要であることを認識されたと思います。もう一つ認識された点は、(個人的認識かもしれませんが)現在の当クラブの重要問題は「クラブ財政」であり、財政問題解決の一手段として「増強」があるのであり、増強そのものに問題があるのではない、という点ではないでしょうか。勿論、会員の増強は必要ですが、会員の質のよさを重視している当クラブの基本方針を曲げて、財政問題解決の為に、会員増強を進めていけば、それこそ別の意味での「会員問題」が起きると思われます。25名で出発し、3年後に倍増した当クラブの会員増強は、むしろ順調すぎる位といったは過言ではないでしょうか。

クラブ財政問題は、収入と支出のアンバランスから発生していますが、この問題解決の重要な一手段として会員増強があるのは事実です。会員増強についての当クラブの基本方針を貫くのであれば、財政上の理想会員数に到達するには相当程度の年月がかかるでしょう。又、かけるべきだと思います。財政問題はその前提に立って、長期的、段階的解決をはかるべきではないでしょうか。

これからの当クラブの歴史を作り上げていくなかで、財政問題解決の為、ある時期、会員の年会費負担(具体的方法は別として)が重くなったり、経費節減を実施したりすることは止むを得ぬことと思われますが、全員アンケート等により、会員の総意を集約し、具体策を立案、実行に移していくべきではなかろうかと考えます。

幹事 馬場 一 廣

1. 渉外費の節減

渉外費は当クラブが地区あるいは他クラブとの関係（対外関係）において、生ずる経費で、例えば〇〇委員長会議登録料、〇〇セミナー登録料、〇〇認証状伝達式祝金、地区費、人頭分担金、地区協議会登録料等があります。

この内訳は、①人頭分担金のように頭割で負担しなければならないもの、②登録料のように会議、式典あるいはセミナーの開催による出席のため負担しなければならないもの、③出席に際して持参する祝金あるいは香典等があります。①の場合は頭割で負担を割り当てられるものですから別として、②③については現在当クラブの人数・能力・経費負担力等を考慮して可能な範囲で参加することとしています。（尤も、今年は田辺ガバナーが出ておられることもあって参加を余儀なくされるものも多々あります）。また、②については原則として、例えば社会奉仕委員長会議のような場合、当クラブの委員長に出席頂くときは自己負担をして頂いております。従って、かなりしぼり込んでいるつもりです。勿論出席あるいは参加のための交通費は一切各自負担としてあります。

ただ、食事が出る会合の場合は、出席者が誰であろうと負担すべきかについては、そこまですべきかどうかは会員の総意で決めて頂くしかありません。

2. 委員会費用

当クラブの委員会費用は一般的にいて貧弱で、充実した委員会活動のための額とはいえないと思われます。しかし個人的には、例えば誕生日のお祝い品をどうするか（親睦活動委員会費）、「ロータリーの友」の講読料をどうするか（雑誌委員会費）、その他会員の総意でその可否を決めて頂くものもあろうかと思えます。

3. 理事会の開催場所

理事会では先般経費節約を率先して行なおうとの趣旨から理事会を事務局で行なおうとの話が行なわれましたが、現在事務局は地区大会の準備もあり、机、椅子も増え、臨時職員も来ることとなっておりますので、時機をみて実行を試みる予定です。

4. 事務局経費

番茶はともかく事務局経費は夢々放漫になることがないよう節約を心掛けるようにしております。

5. 会員増強委員会、会員選考委員会、職業分類委員会の一本化

上記三つの委員会は定款、規約上設けることが決められておりますので、委員会を一つにすることは出来ないと思います。またこれらの委員会の経費予算はいずれも1万円ですが、前年の実績も今年の現在時点でも1銭も使われておりませんので、一本化が可能であっても経費節約には余りつながりません。

プログラム委員長 村 川 優

毎週例会の卓話者の選定には苦勞しています。少しでも面白く、少しでもお役に立つような卓話者をと考えてはおりますが、さてその結果が、皆さんに喜ばれているかどうかプログラム委員全員が心配しています。ご意見がありましたら、ご遠慮なくお知らせ下さい。尚一層努力したいと思っています。

いわゆる著名人をお招きするのもよいのですが、考えて見ますと、当クラブメンバーは、それぞれの業界の一流人が揃っているのですから、その方々からのお話を承るのが、先ず第一番に大切なことであります。

従いまして、今期後半（平成2年1月～6月）は、努めて当クラブメンバーに卓話をお願いしたいと思っておりますので、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

尚、我会員のインニシェーションスピーチにつきましては大分以前に入会されたにもかかわらず、まだスピーチの機会をつくりませんでしたこと、まことに相済みません。なるべく早い時期にお願いすることになっておりますのでどうぞご了承下さい。

いろいろの卓話をきくたびに、世の中にはそれぞれご専門の分野で、偉い方がおられるものだなあと、いつも感心します。これからも、「面白く役に立つ」卓話のためにご協力ください。

SAA 委員長 山 田 順 則

月一回、例会をコーヒーとサンドイッチで過したらどうかという考えは、まことに当を得た提案であると思う。

月一回といっても、月末最後の例会で定期的にするのかどうか又、その時に卓話を履行するのかどうか等いろいろと問題が出てくる。この事によって予算が年 50 万円程度節約になるというのだから経費節減の折から結構な話である。ホテルの会場費が嵩むため、一回行なうのに一人 4000 円は掛ってしまうので、それだけみれば割高に感じることになるかも知れない。

ロータリーは、親睦を基礎とし、奉仕を基本とする集りであるが、そこには品位という幕で覆われていなければならないというのが私見であるが、コーヒーとサンドイッチによる例会の運営がこの考えに反するものでなく、ロータリーの歴史や理想に照らしても何ら恥じるものでもない。

ホテルのグランドミュージックに耳を傾けながら、コーヒーを飲むのも又乙なものであろう。

新橋ロータリークラブのように月一回「カレーの日」を設けて質素に会食し、例会費の差額をポリオプラスに寄付している処もあると聞いている。

ロータリーソングとクラシックをグランドピアノの生の演奏を聞く日を楽しみにしながら――。

クラブ会報を月報にできるか

ロータリー情報委員長 田 島 一 郎

当クラブは標準ロータリークラブ定款および推奨クラブ細則、を採択しております。同細則第 8 条第 1 節 (c) に、クラブ会報委員会の任務が規定されておりますが、その中で「この委員会はクラブ週報の刊行によって……」と記述されておりますので、クラブ週報を刊行することが適切であると判断されます。

ただしクラブ定款または国際ロータリー定款、細則と矛盾しない限り、クラブ自身の事情に応じて推奨クラブの細則を変更することができると規定されておりますので、クラブ自身にもっともな事情がある場合には変更できると解釈されます。しかし、疑問のある場合にはその変更案を国際ロータリー事務総長に提出して、国際ロータリー理事会の審議を乞う必要があります。

クラブ会報委員長 大日方 真

クラブ会報の予算を倍増して 100 万円にしたのは増やし過ぎだ、会報は週報でなく月報でも良いというご指摘がありました。

会報の予算は、前年は年 50 回発行で 50 万円、1 号当り 1 万円でした。それに印刷屋さんに無理を聞いていただいた結果でした。本来、このような立派な会報を 1 号 1 万円でつくろうというのはとても無理だと思います。

私が会報を担当して頭をかかえてしまったことがもう一つあります。会報の原稿をかくところから印刷まで数日しかないのですが、火曜か水曜に初校のゲラが出た段階で、しばしば大幅な原稿差替えが起こります。拙速で編集し、記事の内容や量を確定してから印刷にまわるということが出来ないためやむをえないのですが、原稿差替に印刷屋さんに多大な迷惑と負担をかけることになっています。非常識ともいえる単価とこの迷惑、私はそれを少しでも改善をと思い、100 万円の予算をとっていただきました。しかし不用意な支出はしていません。会報の新しいデザインも会報用の原稿用紙もすべて善意の寄付によりました。

私が会報を担当してもう一つ気掛りなことがあります。それは、今の方式で毎週会報を出すことは、会報担当者に非常に大きな時間的精神的負担をかけるということです。他のクラブで一般的に行っているように、例会の内容や卓話の記録、会報の編集は費用を払って外部委託し、会報担当者は初校のゲラで必要な修正をはかるという方法を早期に採用しなければならないと思います。それをどこに委託するか、常識的に考えれば、会報の印刷をお願いしている印刷屋さんということになるでしょう。そのためにも、まず適切な支払をしなければなりません。

週報を月報にできたら、編集の負担は軽くなります。しかし、現在の費用は下げられないでしょう。毎例会についてどうしても記載しなければならないことがあり、それを 1 か月分まとめたら 8 ページ位にはなってしまうからです。

出席委員 後 藤 信 夫

出席については「ロータリークラブ定款第7条」で述べられているとおり、(会員であれば全員承知していることであるが) 60% 出席という事が示されているが、出席委員会としては100% 出席を目指すのは当然の事と思う。ただ、会員の皆様は社会的にも重要なポストを占められ、忙しい中、100% という数字は物理的にも無理という会員も多いのが現実である。そういう中で100% 出席というのは、確かにそれだけをとりえれば立派な事である事は誰でも認めるでしょう。ただそれが祝いの品をプレゼントすることによってたえる必要まであるだろうか。100% 出席という事実を会員に知らせる事で十分な気がする。

祝いの品が出席する事のインセンティブになっていると思わないし、会の持つ雰囲気その他で、どうしても金曜日の12時30分に全日空ホテルに来てしまうというインセンティブを作り上げていく事が望まれる。現状の財政状況を考えても、少ない額ではあるが、出費をおさえられるのは事実である。

◎お知らせ

。第4回クラブ協議会

‘90年1月19日(金) 例会後13:10~15:00

東京全日空ホテル八雲の間

テーマ「各委員会上半期活動報告と下半期活動計画」
各委員会委員長は「上半期活動報告と下半期活動計画」の資料を‘90年1月12日(金)までに事務局へご提出下さい。

。臨時クラブ協議会

‘90年2月2日(金) 例会後13:10~15:00

東京全日空ホテル青雲の間

テーマ「会員増強と財政」

第3回クラブ協議会(10月20日)に引き続き同じ
テーマで臨時協議会を開催します。

各会員の忌憚のないご意見をお願いします。

ソングリーダー委員長 村 上 満

当クラブの財政難打開に関して真摯なご意見が多数寄せられました。

歴史の浅い、新しいクラブに必然的につきまとう課題であり、踏み超えなければならないハードルであろうと思います。

ロータリークラブに限らず、いかなるグループでも、その組織を運営するためには、固定費用が必要なですが、メンバーが数少ない程、一人当りの固定費用の負担が大きくなるのも自明の理です。そして、その組織としての存在意義をもつために行うべき、最低限必要な事柄があると思うのです。

ピアノ伴奏はテープに代えたら、というご意見がいくつかございました。しかし、私はピアノ伴奏は前述の〈最低限必要な事柄〉ではないかと考えておるものであります。

「それなら、どうしたらよいのか」

結論を急ぎますが、会費の値上げで現状をしのぎ、会員増強に全力を上げるのではないかと思います。

紙面の都合上、舌足らずを十分承知の上で意見を申し上げました。



東京新南ロータリークラブ 会長=佐藤 定宏 副会長=川鍋 達朗 幹事=馬場 一廣 会報=大日方 真
事務所 〒107 東京都港区赤坂2-22-19 南部坂アネックス201号 TEL. 03-505-5976 FAX. 03-505-6004
例会日 金曜日 12時30分 例会場 東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL. 03-505-1111